

放送事業者による対応(株式会社テレビ北海道 TVh)

発災直後の状況

本社設備の状況

地震による本社社屋・設備への被害は無し。

予備電源(発電機)により放送継続(両系停電は9月6日3時25分から9月6日14時28分まで)。

送信所設備の状況

地震による送信所・中継局設備への被害は無し。

予備電源(発電機およびバッテリー)により放送継続。

社員の出勤状況

自主的に出社(タクシー、自転車、徒歩、自家用車等)。

災害報道開始

テレビ: 3:55より災害報道(テレビ東京カットイン)を開始。

4:27よりツイッターで災害関連情報を継続発信。

4:44よりL字画面を送出。



放送事業者による対応(株式会社テレビ北海道 TVh)

停電時の災害報道番組放送継続の取組

人

社員や家族に大きなけがなどは無かった。

社内では全社一丸となり協力し、また系列局から多数のスタッフの応援や協力を受けた。

送信所

予備電源がバッテリーの中継局においてバッテリー枯渇後の電源喪失を防ぐため、在札各局・保守業者・自治体等と協力し、発電機を使用し現地作業で電源供給を行った。常設発電機・ポータブル発電機とも必要に応じて燃料の給油を実施。

災害報道番組等

5:45に道庁前から中継を行い、その後も継続して全国中継、ローカルニュース、随時カットイン、L字送出を続けた。15日には「けいざいナビ北海道」を生放送とし、ブラックアウトについて解説した。

全道が被災・停電している状況で視聴者のスマホのバッテリーが消費することを危惧し、動画配信ではなくツイッターによる生活情報発信を並行して行った。

放送事業者による対応(株式会社テレビ北海道 TVh)

燃料調達・確保に関する取組

燃料供給状況

都度給油を行っていた。給油量の制限及び給油待ちの影響を受けた。中継車等については、応援のキー局から給油を受けることができた。

設備の状況

本社には、発電車を手当てして非常用発電機のバックアップに充てた。本社および親局・基幹送信所の燃料は4日分程度もしくはそれ以上備蓄があった。

番組制作現場の状況

報道車両は、主に札幌のガソリンスタンドで給油し現場に移動した。

その他

総務省から、燃料枯渇のおそれがある基幹局への給油対応の照会があった。今回の地震では復電したため実際給油を行わなかったが、民間との優先供給契約締結と合わせて給油ルートの多様化を進めていきたい。



放送事業者による対応(株式会社テレビ北海道 TVh)

放送継続のための対応

中継局バッテリー枯渇への対応

中継局バッテリーは電源供給時間に限りがあるため、在札各局・保守業者・自治体等と協力し、67 (TVhの場合)中継局について、発電機による電源バックアップを行った。本社から比較的近い中継局へは、担当者が深夜・早朝問わず、燃料補給へ都度、出向した。また、札幌本社から遠方にある局については、出向後は戻ることができないため、社員が車中で仮眠をとりながら、対応をした。

発電機の確保についても、比較的発電容量の小さい発電機に関しては、本社で所有していたが、3相200Vの大型の発電機に関しては、所有していなかったため、急遽レンタルにより対応した。発電機のレンタルについても、大半の機器が貸出をされていたため、多くの連絡業者に連絡を取り、ようやく確保できた。

燃料確保について

仮設発電機、車両用の燃料確保については、営業スタンドが限られており、給油制限もあったことから、燃料調達に時間を要した。(1時間以上給油待ちをして、制限量を給油することを繰り返した)

中継局出向車両の確保について

道内の複数中継局へ出向するためには、車両の確保が必要であった。このため、レンタカーの手配をしようとしたが、停電によりシャッターが開かない、既に大半の車両が貸出されている等の状況で、レンタカーの確保に苦労した。